

施策評価表(平成19年度の振り返り、総括)

作成日 平成 20 年 8 月 7 日

施策No.	15	施策名	快適な道路機能の強化
主管課名	建設課	主管課長名	紙尾 昌志
関係課名	都市計画課、環境安全課		

施策の目的 【対象】	市民	対象指標名	単位	17年度	18年度	19年度
		人口	人	46,913	46,723	46,459

施策の目的 【意図】	市内外への通勤や買物が安全で快適・便利に行える。	成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	22年度目標
		市道舗装率	%	92.9	93.1	93.2	93.3
		都市計画道路整備率	%	85.2	86.2	86.2	87.0
		歩道整備延長	km	17.3	17.4	17.5	18.5
		便利で使いやすい生活道路になっていると感じている市民の割合	%		41.8	45.5	45.0

成果指標設定の考え方
 市内の道路に占める割合(道路延長割合)が78%と多い市道の舗装率をみることで、どれだけ快適・便利な道路になっているかがわかるので、これを成果指標とした。
 市内の主要道路である都市計画道路の整備率をみることで、市内、市外への移動が快適・便利になっているかがわかるので、これを成果指標とした。
 歩道整備延長をみることで、どれだけ安全に歩行者が通行できるかがわかるので、これを成果指標とした。
 市民に市内の道路が快適・便利に利用できるかを聞くことで、道路機能がどれだけ発揮されているかがわかるので、これを成果指標とした。

成果指標の把握方法(算定式など)
 建設課の資料により把握。「魚津市道路台帳」のデータによる。算式:市道舗装率 = 市道舗装済延長 ÷ 市道延長 × 100
 都市計画課の資料により把握。算式:都市計画道路整備率 = 都市計画整備済延長 ÷ 都市計画決定道路延長 × 100
 企画政策課の市民意識調査により把握。便利で使いやすい生活道路になっていると考える市民の割合(生活道路に限定してのアンケート調査となっており、全体についても聞く必要がある)

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> 身近な道路について、除草や側溝の清掃に協力していただく。 道路整備の目的、必要性を理解いただき、用地買収等に協力していただく。 道路上の不具合箇所等を発見されたらできるだけ早く連絡をいただく。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 道路整備は計画的に行い、維持管理は道路管理者として適切に実施する。
	その他	

施策No.	15	施策名	快適な道路機能の強化
19年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)		
	魚津市の市道舗装率は、15年度92.3%に対し19年度には93.1%と0.8%上昇している。 魚津市の都市計画道路整備率は、15年度85.2%に対し19年度では86.2%となっている。 魚津市の歩道整備延長は、15年度の15.8Kmに対して、19年度では17.5Kmとなっている。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)		
	魚津市の市道舗装率は、近隣市と比べると4%ほど低くなっている。 魚津市の都市計画道路整備率は、黒部市では34.4%、滑川市では70.7%である。 魚津市の歩道整備延長は、地形等の違いもあり近隣市との比較は出来ない。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)		
生活道路についてはある程度整備されているが、舗装は老朽化が進み、住民から修繕の要望が耐えない状況である。幹線道路については、通勤通学時慢性的な渋滞解消と歩行者の安全な通行が望まれている。			
2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)			
市道整備の推進 ・駅前地区景観整備 ・吉島中川側線整備 ・生活道路の役割を果たす市道の改良、舗装や交通の安全性確保のため適切な維持管理 都市計画道路整備 国道8号バイパス魚津区間において用地買収、物件補償に着手してきている。 歩道整備 市道上村木カーバイト線歩道整備(バリアフリー化)事業			
3. 施策の課題認識及び20年度の取り組み状況(予定) (19年度末で残った課題、既に20年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)			
【市道整備】 ・市道の改良・舗装は緊急性・必要性を勘案して、吉島中川側線等の整備を継続して行っている。 ・交通量の増加や老朽化により、補修などの維持管理が増大しているが、計画的に対応していく必要がある。 【都市計画道路】 ・国道8号バイパス早期開通に向け用地買収、物件補償、埋蔵文化財調査を早急に完了させることが緊急の課題である。平成19年度より片貝川下部工事に着手している。 【歩道整備】			

	区 分	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績
施策の トータル コスト	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	20			
	B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	319,328			
	C. 事務事業に要する年間総時間	時間	25,000			
	D. 人件費 (C × 1時間あたりの平均人件費)	千円	102,750			
	E. トータルコスト (B + D)	千円	422,078	0	0	0
効率性 指標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の	円	6,834			
	F. 事業費 (定義式 : B / 46,723)					
	同 上 G. 人件費 (定義式 : D / 46,723)	円	2,199			
	同 上 H. トータルコスト (定義式 : E / 46,723)	円	9,034			